

元気ふくいっ子の笑顔のための

# 学校事務グランドデザイン

～つながり行動する事務職員をめざして～ 2016



つぐみ

福井県公立小中学校事務職員研究会

## 目 次

はじめに	1
学校事務グランドデザイン「つぐみ」 全体構成図	2、3
求められる学校と福井県がめざす教育の姿	4
めざす学校事務	4
めざす事務職員	5
めざす学校事務組織	6
県事研 実行策	7
実行策基本方針	8
実行策シート	
経営	9
評価	10
組織	11
財務	12
情報	13
研修	14
用語解説集	15

元気ふくいっ子の笑顔のための

# 学校事務グランドデザイン「つぐみ」

～つながり行動する事務職員をめざして～



## はじめに

福井県公立小中学校学校事務職員研究会（以下県事研）は、平成23年度に新しい時代に向けた学校事務の「元気福井っ子の笑顔のための学校事務グランドデザイン」を提示しました。「つながり行動する事務職員」を基本理念として、学校事務と事務職員のめざす姿、そして、それにかかる実行策を策定しました。

グランドデザインは、子どもたちの学びを支援する学校事務を構築し、教育を創造する学校事務・事務職員へのプロセスを描くものです。会員一人一人の日々の実践へとつながるものとして描かれたものですが、求められる学校・学校事務にも大きな変化が起きています。さらに近年の大量退職に伴う世代交代に向けて、これまでの活動の継承と次世代を見据えた活動への発展へとつなげるため県事研は新たな方向性の提示が必要になってきました。

グランドデザインを策定してから5年が経過し、平成27年12月に出された「チームとしての学校の在り方と今後の改善方策について」及び、「新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた学校と地域の連携・協働の在り方と今後の改善方策について」の中教審答申において示されたように、学校運営における事務職員の存在とその役割にも大きな変革が必要となってきました。

今日の学校を取り巻く課題は、複雑化・多様化し、困難化してきています。さらに、これからの時代に求められる資質・能力を育む教育課程を実現するための体制整備が求められています。学校において子どもが成長していくうえで、教員の指導体制の充実に加えて、様々な専門スタッフが重要とされてきており、チームとしての学校の在り方が重要になっています。チームとして機能するためには事務職員が果たすべき役割・標準職務の明確化を促進する等、学校事務の体制の強化を推進していくことが必要です。これからの学校事務の共同実施における役割も大きく、目的を見据え実践していかなくてはなりません。また、事務職員にも、学校教育目標や教育課程をふまえ、行政的な観点から学校運営等の充実・改善に貢献しようとする意欲・能力を高めることが課題となってきています。

県事研はやがて50年を迎えようとしています。これまで培ってきた活動を土台としながら、事務職員の専門性を生かし、子どもたちを取り巻く人や機関、地域とつながり、共に行動できる事務職員として今後の課題を見据えての研究を積み重ね、継続的な研修を進めて行動していきます。これまでのグランドデザインに続く新たな学校事務グランドデザインを策定し、実現に向けての新しい実行策をわかりやすく会員の実践につなげて、これからの学校づくりに寄与していきます。

私たちは、元気な学校、元気な地域を創るために、関係者すべてが当事者意識を持って、共感し共有して、手を取り合い行動していく事務職員をめざし、「元気ふくいっ子の笑顔のための学校事務グランドデザインーつぐみー」をここに提示します。

平成29年 2月

福井県公立小中学校学校事務職員研究会  
会長 榎山 繁子

## グランドデザイン「つぐみ」とは

子どもたちの学びを支援するため、求められるこれからの学校の実現に向けて、学校事務職員として何をしなければならないのかを描いた福井の学校事務の将来構想です。



### ・・・GD愛称「つぐみ」の由来・・・

福井県の鳥「つぐみ」にちなみ  
子どもの思いを「継」ぎ 育ちを「実」のらせる  
という思いを込めました

# 元気ふくいっ子の笑顔のための 学校事務グランドデザイン「つぐみ」

～つながり行動する事務職員をめざして～



## ミッション(使命)

子どもたちの確かな学びを支援する学校事務

## めざす学校事務

学校の主体性を  
確立する  
「学校事務」

安全・安心で質の高  
い教育環境をつくる  
「学校事務」

地域とともにある  
学校を創造する  
「学校事務」

## めざす学校事務の実現に向けた重点事項

### 学校事務機能の強化

- 学校のマネジメント機能の強化
- 共同実施を活用した学校事務の推進

### 学校事務の連携と協働

- 教職員、地域関係機関との連携と協働
- 地域との連携を果たす学校事務機能の明確化

### 学校事務の組織化

- 学校内外の事務処理体制の整備
- 地域全体の学校事務の資質向上

## 学校経営の中核的役割を担う学校事務

### 福井県がめざす教育の姿

「ふるさと福井への誇りと愛着を持ち、  
自ら学び考え行動する力を育む  
教育県・福井」



(福井県教育振興基本計画 平成27～31年度より)

### 学校における学校事務の姿

校内においては、スクールプランに則った  
事務部経営案の作成と実践に取り組む。

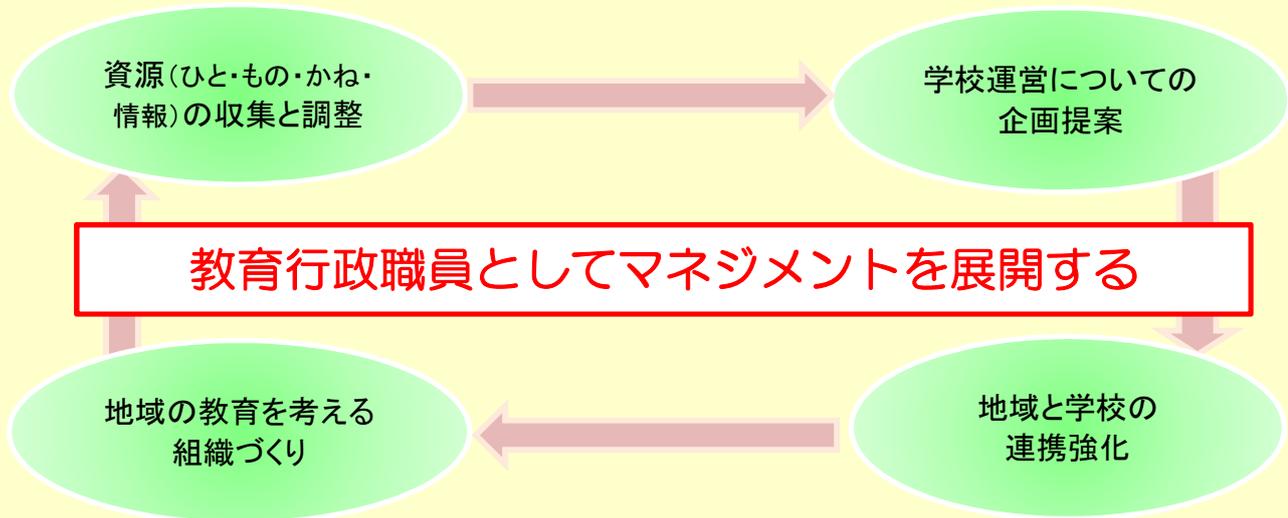
様々な人・機関との連携・協働に  
より、教育目標の実現や  
学校課題解決に取り組み、  
学校力の向上に資する。



## めざす事務職員

### 基本理念 つながり行動する事務職員

人と人、学校と家庭そして地域をつなぎ、教育目標実現に向けて、私たちにできることは何かを考え行動することが大切です。



学校経営の中核となる学校事務を担う学校事務職員をめざします

実現するための  
具体的な方策

### ミッションを実現するための実行策 6つの柱

個々の経験値に応じた目標の設定と実践を積み重ねていくための実行策を提案します。事務職員の強みを生かした実践で学校運営の向上に努めます。

#### 経営

各種マネジメントを展開し、事務機能の強化を図る

#### 財務

学校の主体性を持った財務運営で教育環境整備の充実を図る

#### 評価

自己評価・事務部評価・学校評価を活用したPDCAサイクルの確立で、課題解決の体制を構築する

#### 情報

情報の有効活用により、教育活動の質の向上、学校事務の効率化、地域・保護者への説明責任につなげる

#### 組織

組織の在り方や役割を明確にした専門性に基づくチーム体制を構築し、学校事務の組織化を進める

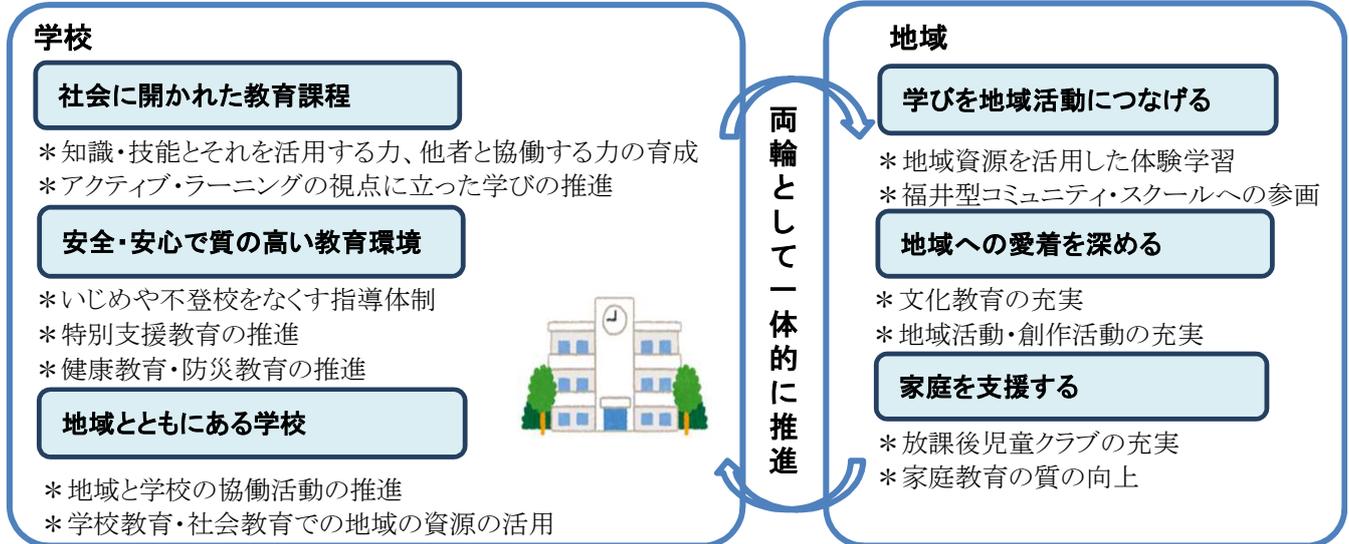
#### 研修

職務遂行及び教育支援において必要な能力を身につけ、学校経営に結びつく実践や研修の企画を行う

## 求められる学校と福井県がめざす教育の姿

平成27年12月21日中央教育審議会では「チームとしての学校の在り方」及び「学校と地域の連携・協働の在り方」の答申がまとめられました。これからの学校が教育課程の改善等を実現し、複雑化・多様化した課題を解決していくためには、校長のリーダーシップの下、カリキュラム、日々の教育活動、学校の資源が一体的にマネジメントされ、教職員や学校内の多様な人材がそれぞれの専門性を生かして能力を発揮し、子どもたちに必要な資質・能力を確実に身に付けさせることができる「チームとしての学校」が求められています。また、学校は地域とともに発展していくことが重要であり、地域と一体となって子どもたちを育むことをめざして、学校・家庭・地域の関係者が目標や課題を共有し学校の教育方針の決定や教育活動の実践に地域ならではの創意や工夫を生かした特色ある学校づくりを進めていくことが求められています。

### 学校と地域の創生が学校の課題解決につながる



福井県教育委員会は、平成27年12月に福井県教育振興基本計画（平成27～31年度）を策定しました。接続を重視した「福井型18年教育」を進め、「ていねいな教育」と「きたえる教育」により、子どもたち一人ひとりがふるさと福井への誇りや愛着を持ちながら、活躍できるよう得意分野を伸ばし、夢や希望を実現する「突破力」を身に付けることができる教育を推進しています。（平成27年12月福井県教育振興基本計画より抜粋）

## めざす学校事務

### 学校の主体性を確立す

- ・効果的な予算の活用に取り組み、教育活動の充実をめざし、子どもたちの学びを支える

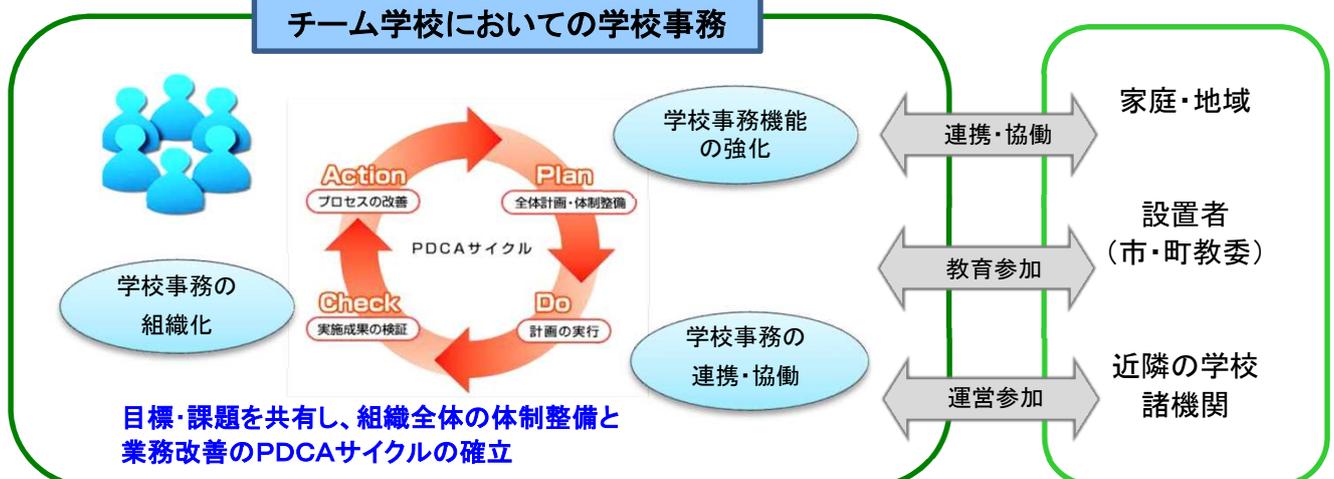
### 安全・安心で質の高い教育環境をつくる

- ・質の高い学力の育成に必要な教材やICT機器等を整え、教育環境の整備をする
- ・安全・安心な施設の整備と教育の情報化を推進する

### 地域とともにある学校を創造する

- ・学校と保護者や地域、関係機関との連携を推進し、地域を愛する子どもを育てる環境をつくる

### チーム学校における学校事務

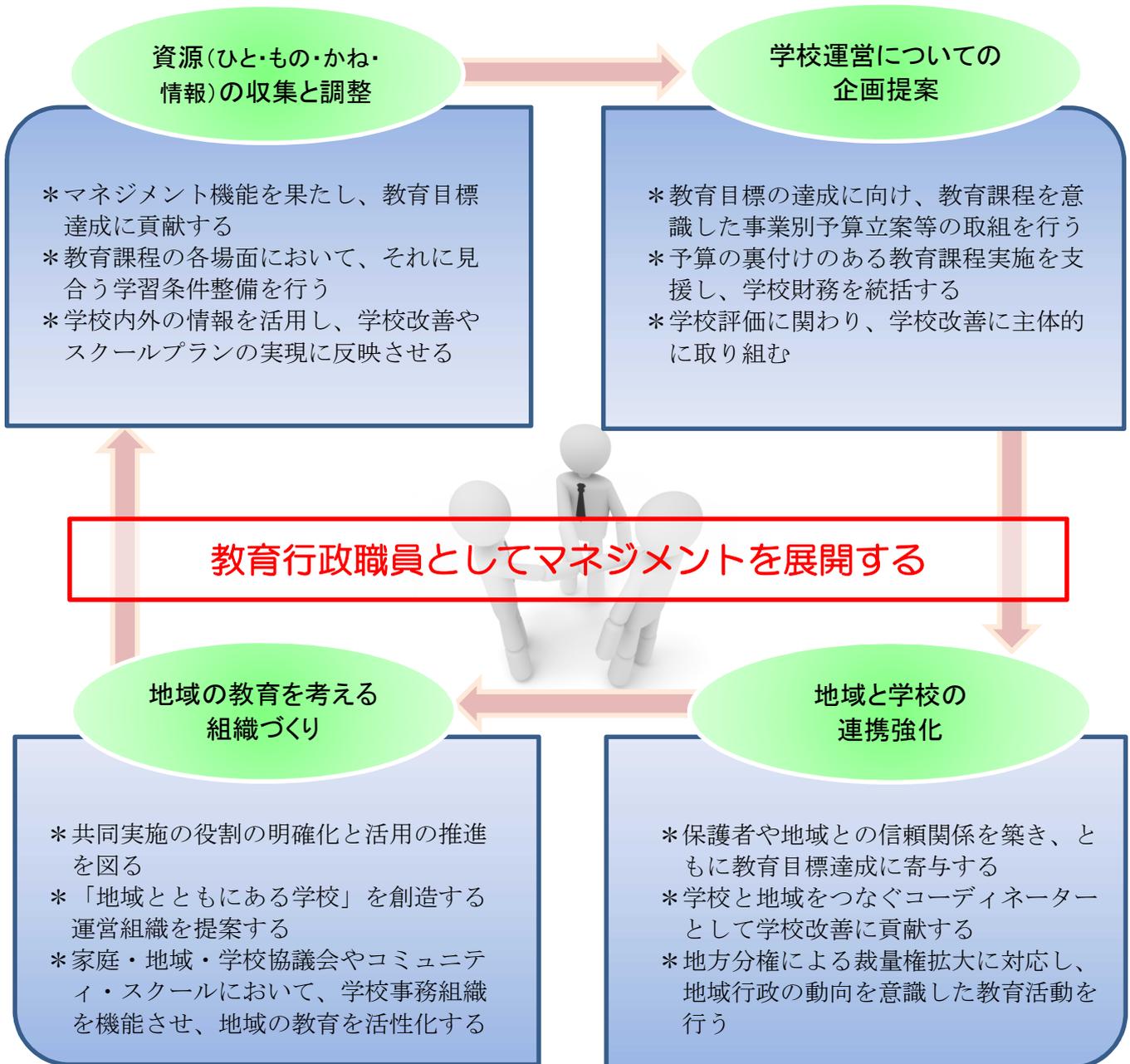


これからの学校事務には、教育目標の実現と課題解決のため、様々な人と連携・協働をしながら、事務機能の強化・組織化を推進するための企画提案をする学校経営の中核としての役割が求められています。また、学校事務がチームとして機能していけるよう、めざす目標を学校全体で共有し、協働体制を築いていかなければなりません。

※学校事務とは、学校がスムーズに機能していくための学校経営や運営に係る、すべての事務を指します。

つながり行動する事務職員として

学校で、地域で、組織（研究会・共同実施）で



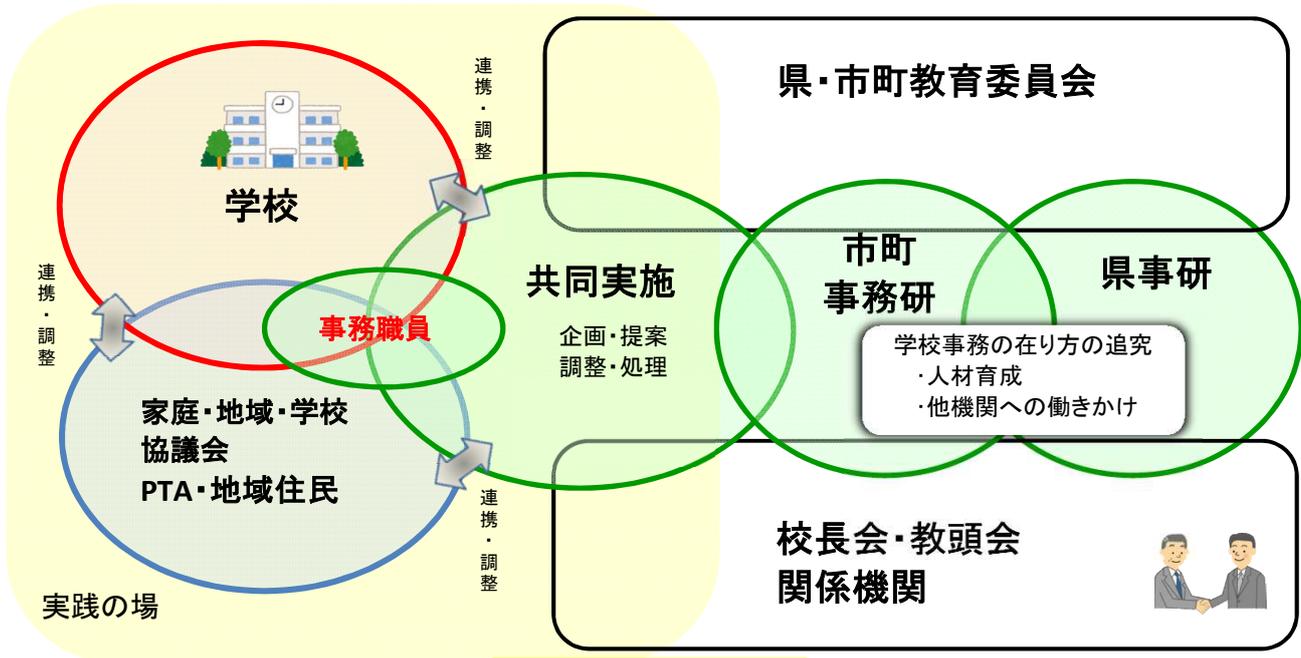
私たちは、学校にあって、地域にあって、子どもを取り巻くあらゆる人や機関とつながり、地域とともに行動することにより、新しい時代の学校づくりに積極的に関わることを進めてきました。

教育目標の実現と、ますます複雑化・多様化していく学校課題、主体的・協働的な子どもの学びの創造や、新たな教育課題への対応には、「チームとしての学校」の体制を整備し、取り組むことが求められます。そのためにも、これまで以上に学校のマネジメント機能を強化することが必要であり、その中において学校事務は、様々な人や機関と連携・協働しながら、組織化と機能強化を推進することが必要です。

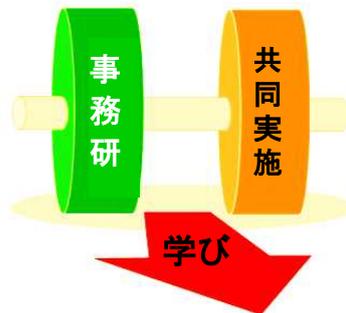
それを司る学校事務職員は、教育行政職員としての専門性を基盤としつつ、教育や学校運営に関する専門性も併せ持つマネジメントスタッフとして機能することが重要と考えます。学校の課題解決に向けて、経営資源（ひと・もの・かね・情報）を効果的に活用し、専門的視点からの企画提案を行うことで、学校経営の中核となる学校事務を確立させます。また、行政や地域・保護者との調整業務を担う役割をさらに拡大させ、地域とともにあり、ともに推進する学校づくりに寄与します。そして、学校内だけでなく、地域学校間の事務の統括者として教育に携わることで、子どもたちの確かな学びを支援する学校事務を担う事務職員であることをめざします。

## めざす学校事務組織

学校事務機能を強化し、学校経営を支えるためには、事務職員が相互に連携・協働し推進することが効果的です。個人ではできないことも、組織として連携し、働きかけを行うことで達成できるものが多くあると考えます。教育委員会をはじめとした学校事務に関わる組織同士のつながりを大切に、事務職員研究会、共同実施のそれぞれの役割をふまえて活動し、学校事務組織の充実をめざします。



充実した連携 → 学校力が高まり教育効果を上げる



- 事務職員研究会の役割
  - ・学校事務ビジョンの策定と実行計画に基づく活動の普及、評価
  - ・情報の共有化システム構築
  - ・研修の体系化と実施、検証
  - ・県教委等関係機関、団体との渉外、連携
  - ・研究大会運営、大会派遣、研修会実施
  - ・共同実施の推進、条件整備
  - ・規則、規定の整備
  - ・実務支援(標準化・平準化・マニュアル化等)
  - ・権限と責任の在り方等制度的必要性の追究

※県・市町それぞれの強み、特色を生かして実施する

- 課題
  - ・ベテラン層(経験知)の大量退職
  - ・会員の意識の差

- 共同実施の役割
  - ・学びづくり(教育支援)
  - ・学校改善(地域全体の事務機能の向上)
  - ・学校経営への参画・支援
  - ・少経験者支援
  - ・事務機能の適正化、効率化
  - ・事務機能の強化、事務処理体制の確立
  - ・教員の事務負担軽減
  - ・多様化への対応及びサービスの平準化

※地域学校の実情に沿って市町教育委員会と連携して実施する

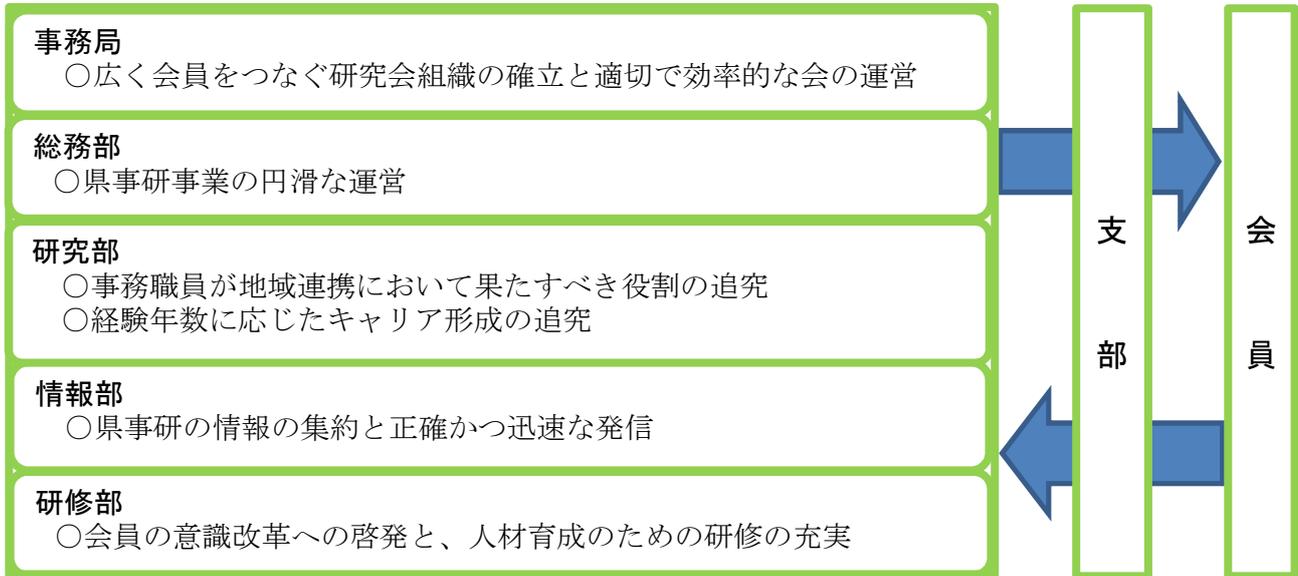
- 課題
  - ・組織、グループライダーの制度的位置付け
  - ・他職種との協働

## 県事研 実行策

組織として子どもたちの確かな学びを支援し、また、会員の「めざす姿」の実現のために県事研は以下の目標と実行策に沿って、活動します。



### めざす姿を実現するための県事研組織目標



### 実現に向けたプロセス

それぞれの具体的な行動を示します。

方 策		28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	成果	課題	
事務局	組織(ローテーション)の見直しと財務基盤確立	→							
	県教委・校長会等との連携強化	→							
	ミッション達成の評価と今後の方向性				→				
総務部	事業の運営基盤の確立	→							
	キャリアに応じた学校経営への参画の在り方について具体的実践を提案する		→						
	地域とつながり行動する事務職員の在り方について研究し、具体的実践を提案する	→							
研究部	責任ある事務処理体制の構築と地域学校間の教育を考える事務組織づくりについて研究し、提案する			→					
	HPきらりを使った実践活動の充実	→							
	会員に向けた情報セキュリティ研修への支援	→							
情報部	HP情報管理体制の再構築		→						
	初任者研修・階層別研修・秋季研全体研修を通し会員の意識改革を図る	→							
	教育活動支援に向けた実践及び実践発表の推進	→							
研修部	教育環境の変化を的確に把握した人材育成研修の実施	→							
	支部	支部内研修の充実とリーダー育成	→						
		世代交代に対応する組織の強化	→						
関係機関との連携・協働の強化		→							
会員	課題の探求と解決をめざす	→							
	学校経営参画をめざす	→							

## 実行策基本方針

私たちは「つながり行動する事務職員」として、個々の経験に応じた目標を設定し具体的に行動します。県事研として6つのカテゴリごとに実行策を提案し、より具体的な行動を実行策シートにまとめました。具体的な行動と経験を積み重ね、学校経営に生かしていきましょう。

経 営	◆ 各種マネジメント力を強化し、各校の教育目標達成へ向けた学校事務を推進する
	◆ 学校の事務を効率化し事務機能を向上させ、事務体制の強化をめざす
	◆ 事務部経営案・事務部評価の実践と定着により、安定した質の高い学校事務を提供する

財 務	◆ 安全・安心な学校生活を送ることができるよう、学習環境整備の充実に努める
	◆ 教育活動を財務的に裏付けし、カリキュラムと結びつけ、教育目標の実現を図る
	◆ 財務の統括者として、保護者や地域からの信頼を得られる学校財務を展開する

評 価	◆ スクールプランをふまえ自己目標を定め、計画的に職務を遂行し自己評価する
	◆ 事務部評価を積極的に行い、改善を図ることで、信頼ある学校づくりに貢献する
	◆ 学校評価を活用することにより、よりよい学校改善策を提案する

情 報	◆ 情報を収集・整理・発信・活用することで、教育の質の向上に寄与し、保護者や地域への説明責任を果たす
	◆ 校務の情報化により、「業務の軽減と効率化」及び「教育活動の質の改善」につなげる
	◆ 情報管理体制を整備し、個人情報の保全に努める

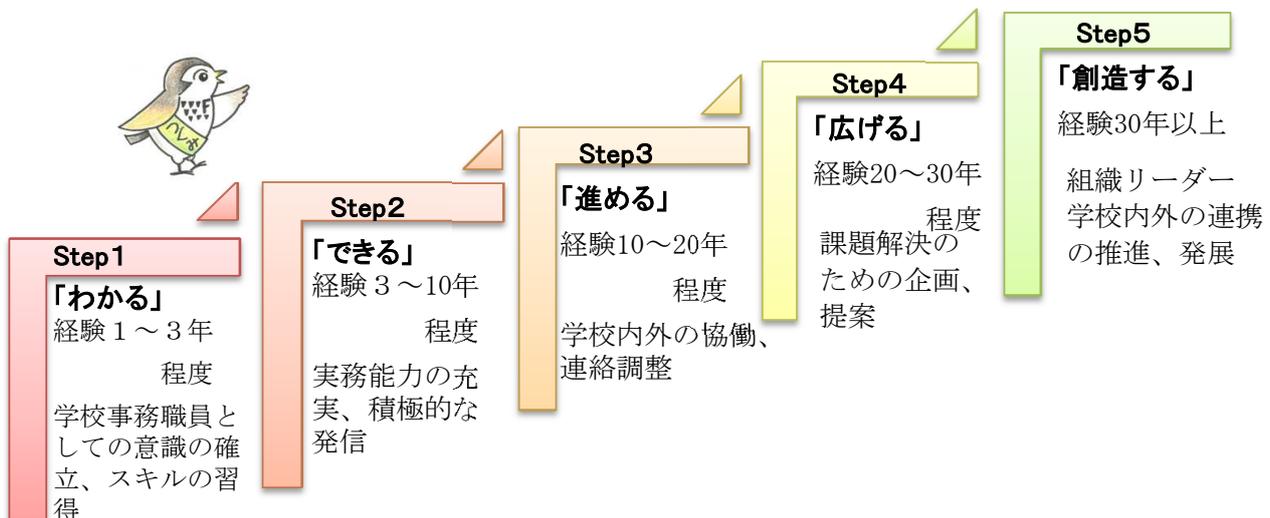
組 織	◆ 専門性に基づくチーム体制の構築を図り、教職員の協働を促進し、学校事務の組織化を進める
	◆ 県全体で進めた方が効果的なことについて県教委と連携し、責任ある事務処理体制を構築する
	◆ 共同実施組織を有効活用することで安定した学校事務を提供し、市町教委との連携を進める

研 修	◆ 人材育成・資質能力開発等のキャリア形成を図り、事務職員の質を向上させ、意識改革を図る
	◆ 学校内外の連携・調整や渉外調整機能の役割を担う、組織マネジメントの資質能力をもつ事務職員をめざす
	◆ 学校教育に貢献していくための、質の高い安定した学校事務の供給につなげる研修を推進する

※支部や共同実施の計画の際には、組織としての取組や実践例に置き換えてください。

## 実行策シートのStepのとらえ方

各ステップをおおむね下記のように定義し、具体的な行動を提案しています。在校期間や校種等により異なりますが、目安としてとらえ、各々のステップアップを図っていきましょう。



経営

- ◆各種マネジメント力を強化し、各校の教育目標達成へ向けた学校事務を推進する
- ◆学校の事務を効率化し事務機能を向上させ、事務体制の強化をめざす
- ◆事務部経営案・事務部評価の実践と定着により、安定した質の高い学校事務を提供する

取組	【校内】 学校教育目標実現に向け、効果的な教育支援をめざす	【校外・地域連携】 「信頼ある学校づくり」及び「地域とともにある学校づくり」を推進する
Step1 (わかる)	<b>校内における学校事務職員の役割を理解する</b> たとえば・・・ <input type="checkbox"/> スクールプラン、教育計画、年間行事について理解する <input type="checkbox"/> 事務職員の役割を意識しながら、職員会議に参加する	<b>適正な事務処理を行い、保護者、各関係機関から信頼される事務職員をめざす</b> たとえば・・・ <input type="checkbox"/> 確実な「報告・連絡・相談」を行う <input type="checkbox"/> 来校者や電話での丁寧で適切な対応について、研修する
	<b>学校経営への参画を意識した学校事務を推進する</b> たとえば・・・ <input type="checkbox"/> 教育活動に積極的に関わり、授業や学習活動がどのように行われているか理解する <input type="checkbox"/> 事務部経営案を作成し、事務機能の向上を図る	<b>自校の学校事務の課題を整理し、校内のシステムを整え、事務機能を強化する</b> たとえば・・・ <input type="checkbox"/> 外部講師の依頼手順をマニュアル化する <input type="checkbox"/> 教職員が必要とする情報等をすみやかに提供できる体制づくりを行う
Step3 (進める)	<b>教育目標実現に向けた取組を教職員とともに提案する</b> たとえば・・・ <input type="checkbox"/> 教職員と協働して、校内の諸問題について改善策を協議し、提案する <input type="checkbox"/> 教頭と業務の連携・分担の見直しを行い、支援体制を強化する	<b>学校と保護者、地域を結ぶネットワークづくりを推進する</b> たとえば・・・ <input type="checkbox"/> 地域の人材リストの作成及び維持管理を行う <input type="checkbox"/> 教職員向けの接遇、外部対応について校内研修を行う
	<b>学校内外の経営資源を活用し、教育活動を支援する仕組みづくりを行う</b> たとえば・・・ <input type="checkbox"/> 学校行事の企画に関わり、助言や支援を行う <input type="checkbox"/> 教育活動に必要な資源等を効果的に組み合わせるための検討体制をつくる	<b>学校と関係機関、保護者や地域との連絡調整を行う</b> たとえば・・・ <input type="checkbox"/> 外部人材や地域教材の有効活用について教職員と協議する <input type="checkbox"/> 家庭・地域・学校協議会の運営に関わる
Step5 (創造する)	<b>さまざまなマネジメントの手法を用いて、学校運営を支える</b> たとえば・・・ <input type="checkbox"/> 学校経営方針(スクールプラン)の改善点について提案を行う <input type="checkbox"/> 課題解決のために有効なマネジメントの手法について教職員に提案する	<b>教育委員会・関係機関と連携し、地域とともにある学校づくりの支援を行う</b> たとえば・・・ <input type="checkbox"/> 子どもたちとの関わり方を地域の大人が学ぶ機会を企画運営する <input type="checkbox"/> 子どもたちの学校での学びが、社会での多様な活動につながるよう支援する
	わたしの取組	
よかったこと 成果 来年度がんばろうと思うこと		

評価

- ◆ スクールプランをふまえ自己目標を定め、計画的に職務を遂行し自己評価する
- ◆ 事務部評価を積極的にを行い、改善を図ることで、信頼ある学校づくりに貢献する
- ◆ 学校評価を活用することにより、よりよい学校改善策を提案する

取組	【自己の目標設定・改善】 自己の評価を分析・活用し、職務遂行能力を向上させる	【事務部の課題設定・改善】 事務部評価及び学校評価を分析・活用し、地域と連携した学校改善に取り組む
Step1 (わかる)	<b>スクールプランや学校の課題について理解する</b> たとえば・・・ <input type="checkbox"/> 管理職から説明(研修)を受ける <input type="checkbox"/> 課題意識を持って業務にあたる	<b>事務部経営案・事務部評価及び学校評価について理解する</b> たとえば・・・ <input type="checkbox"/> 児童や地域に関すること等、学校の特色を理解する <input type="checkbox"/> 校務分掌表・職務内容を理解し、経営案を作成する
	<b>職務における具体的な目標を設定し、実践したことについて自己評価をする</b> たとえば・・・ <input type="checkbox"/> 課題を明確にした目標管理表を作成する <input type="checkbox"/> スクールプランと関連づけた自己評価を行う	<b>校務分掌や職務をふまえた事務部経営案を作成し、事務部評価をする</b> たとえば・・・ <input type="checkbox"/> 改善につながる評価の項目・観点を設定する <input type="checkbox"/> 事務部評価を通して校内の課題・改善点を考える
Step3 (進める)	<b>管理職等からの評価をふまえ、自己の課題を把握し、改善する</b> たとえば・・・ <input type="checkbox"/> 自己評価と管理職等からの評価を分析する <input type="checkbox"/> 評価を反映させた取組を実践する	<b>事務部評価をふまえ、事務部の組織や運営に関する問題点や課題を把握し、改善する</b> たとえば・・・ <input type="checkbox"/> 事務部への校内ニーズを調査し、経営案へ反映させる <input type="checkbox"/> 校内の他組織と連携・協働して課題解決に取り組む
	<b>スクールプランの実現のため、自己目標を設定し、実践する</b> たとえば・・・ <input type="checkbox"/> 教職員と連携して課題解決に取り組む <input type="checkbox"/> 学校改善のための具体的な取組を提案する	<b>事務部の活動を外部に公開し、学校評価を受ける</b> たとえば・・・ <input type="checkbox"/> 企画委員会や家庭・地域・学校協議会等で事務部として提案する <input type="checkbox"/> 学校HP等を用いて、事務部の取組を外部に発信する
Step5 (創造する)	<b>教職員人事評価を活用した資質向上のサイクルを構築する</b> たとえば・・・ <input type="checkbox"/> 学校改善のための自身の取組についての評価を受け、課題を分析し次の取組につなげる <input type="checkbox"/> 評価の分析から現れた改善事項について、対策を講じ、資質向上につなげる	<b>学校評価を活用した事務部の活動を提案し、学校改善と地域連携を推進する</b> たとえば・・・ <input type="checkbox"/> 家庭・地域・学校協議会等で情報交換をし、地域との連携を図る <input type="checkbox"/> 他職種からの評価を実施し、結果を基に改善を図る
	わたしの取組	
よかったこと 成果 来年度がんばろうと思うこと		

組織

- ◆専門性に基づくチーム体制の構築を図り、教職員の協働を促進し、学校事務の組織化を進める
- ◆県全体で進めた方が効果的なことについて県教委と連携し、責任ある事務処理体制を構築する
- ◆共同実施組織を有効活用することで安定した学校事務を提供し、市町教委との連携を進める

取組	【校内】 学校経営スタッフとして教育活動を支援する体制を整備する	【校外】 近隣の学校や外部機関、保護者や地域と、連携・協働し教育や地域づくりを推進する
Step1 (わかる)	<b>学校運営組織について理解する</b>	<b>外部組織について理解する</b>
	たとえば・・・ <input type="checkbox"/> 学校教育や校務分掌表について理解する <input type="checkbox"/> スクールプランを読み、教育目標を理解する	たとえば・・・ <input type="checkbox"/> PTAや地域の関係機関について理解する <input type="checkbox"/> 共同実施や県事研について理解する
Step2 (できる)	<b>教職員と協働し組織的に教育活動を推進する</b>	<b>近隣の学校や行政、地域と連携する</b>
	たとえば・・・ <input type="checkbox"/> 職員向けの事務処理マニュアルを作成する <input type="checkbox"/> 学校評価に事務部に関する項目を追加し、評価内容について検討する	たとえば・・・ <input type="checkbox"/> 共同実施の活動に積極的に関わる <input type="checkbox"/> PTAや地域の行事や会議に積極的に参加し、地域の特色を理解する
Step3 (進める)	<b>事務処理システムの効率化を図り、学校の改善を進める</b>	<b>近隣の学校や地域とビジョンを共有し、教育活動の連携・推進する組織づくりに携わる</b>
	たとえば・・・ <input type="checkbox"/> 校内の事務体制を見直し、業務改善について検討・提案を行う <input type="checkbox"/> 教職員の負担軽減のための具体的な提案をする	たとえば・・・ <input type="checkbox"/> 学校間のビジョンを共有し、実現のための組織づくりを進める <input type="checkbox"/> 「地域の中の学校」としての役割を理解し、地域と学校との連絡調整を行う
Step4 (広げる)	<b>「チーム学校」の一員として関係機関と連携した校内組織を整備する</b>	<b>組織活動の活性化に向けた条件整備を進める</b>
	たとえば・・・ <input type="checkbox"/> 事務部門を統括し、「チーム学校」のマネジメントを行う <input type="checkbox"/> 学校組織の今後を見据え、事務職員の立場(位置)を確立する	たとえば・・・ <input type="checkbox"/> さまざまな職種の人に学校の評価をしてもらい、地域の学校としての在り方の改善を図る <input type="checkbox"/> 行政機関と連携し、学校と地域でまちづくりプランを作成する
Step5 (創造する)	<b>学校組織の改革に関わる</b>	<b>県・地教委等と連携し、総合的な人材育成に向けた組織づくりを展開する</b>
	たとえば・・・ <input type="checkbox"/> 評価を活用し適正で効率的な体制づくりを推進する <input type="checkbox"/> 組織の事務部統括者の立場から、学校経営方針(スクールプラン)に提言する	たとえば・・・ <input type="checkbox"/> あらゆる関係機関を活用し、有能な事務職員の育成のための組織づくりを行う <input type="checkbox"/> 地域に根ざした子どもの育成のための組織づくりを進める
わたしの取組		
よかったこと 成果 来年度がんばろうと思うこと		

財務

- ◆安全・安心な学校生活を送ることができるよう、学習環境整備の充実に努める
- ◆教育活動を財務的に裏付けし、カリキュラムと結びつけ、教育目標の実現を図る
- ◆財務の統括者として、保護者や地域からの信頼を得られる学校財務を展開する

取組	【学習環境整備】 教材・教具の整備および施設設備の維持管理を図り、学習環境を充実させる	【財政支援】 学校教育目標の実現や教育活動の活性化に向け、校内総予算を有効に活用する
Step1 (わかる)	校内の施設設備や備品の保有状況等を把握する たとえば・・・ <input type="checkbox"/> 校舎内を見て回り、自校の備品を把握する <input type="checkbox"/> 施設設備のしくみ等を知り、正しい使い方について理解する	自校の会計や教育活動に関わる予算等について把握する たとえば・・・ <input type="checkbox"/> 消耗品の使用状況を把握し、教職員に節約を呼びかける <input type="checkbox"/> 年間の教育活動や行事等に係る経費について把握する
	備品や施設整備について、有効活用や情報共有ができる体制をつくる たとえば・・・ <input type="checkbox"/> 教職員での備品点検を実施し、台帳を整備する <input type="checkbox"/> 職員会議で施設設備の修繕状況を報告する	保護者の負担軽減を念頭に置き、計画的で適正な予算執行をする たとえば・・・ <input type="checkbox"/> 年間の教育活動に係る経費を理解し、計画的で無駄のない予算執行をする <input type="checkbox"/> 保護者負担軽減に向け、学校集金の内訳を確認し、公費・私費の基準を明らかにする
Step3 (進める)	校内予算委員会を機能させ、自校の教育活動に結びついた物品選定や予算執行を行う たとえば・・・ <input type="checkbox"/> 備品点検結果や使用時期、単元、教科主任の意見等を物品選定や予算要求に生かす <input type="checkbox"/> 教育目標の重点課題達成に向け、予算の有効活用を管理職等と協議する	情報を収集し、低いコストで高い教育効果をあげる工夫を提案する たとえば・・・ <input type="checkbox"/> 地域人材や施設の情報を収集し、活用の提案をする <input type="checkbox"/> 教材や教具の用途や機能について比較・研究し、効果的な物品選定に生かす
	教育情勢やニーズに対応した学習環境整備を行う たとえば・・・ <input type="checkbox"/> ICT機器やデジタル教材等の知識を習得し、導入や活用を提案する <input type="checkbox"/> 児童生徒に学校財務について知ってもらう活動に取り組む(節約の呼びかけや要望の収集等)	正しく明朗な会計処理を行うための条件整備を行う たとえば・・・ <input type="checkbox"/> 校内の会計取扱規則を整備する <input type="checkbox"/> 校内会計システムの統一を行い、校内会計のチェック体制を整える
Step5 (創造する)	地域の小中学校の今後の情勢やビジョンに応じた財務計画を提案する たとえば・・・ <input type="checkbox"/> 関係機関と連携して、市町の学校間での備品活用のシステムを構築する <input type="checkbox"/> 学校の統廃合に向けて、校区内の備品整備計画を提案する	学校財務の中核を担い、地域の小中学校の会計や財務のシステムを整備する たとえば・・・ <input type="checkbox"/> 地域の小中学校の学校徴収金について標準化する取組を行う <input type="checkbox"/> 地域の小中学校の会計の様式やシステムを標準化する取組を行う
	わたしの取組	
よかったこと 成果 来年度がんばろうと思うこと		

情報

- ◆情報を収集・整理・発信・活用することで教育の質の向上に寄与し、保護者や地域への説明責任を果たす
- ◆校務の情報化により、「業務の軽減と効率化」及び「教育活動の質の改善」につなげる
- ◆情報管理体制を整備し、個人情報の保全に努める

取組	【管理】 情報管理の適正化を図り、校務の効率化を推進する	【活用】 効果的な情報の収集・発信を推進し、学校運営や教育活動の活性化をめざす
Step1 (わかる)	<b>基本的な情報処理能力を身につける</b>	<b>情報を整理し、発信する</b>
	たとえば・・・ <input type="checkbox"/> 守秘義務及び情報管理の重要性について理解する <input type="checkbox"/> 校内の情報管理体制について理解する	たとえば・・・ <input type="checkbox"/> 学校内外の行事に参加し、予算に係る情報を収集する <input type="checkbox"/> 学校事務に関する情報を朝礼等で周知する
Step2 (できる)	<b>校内データの一元管理、共有フォルダの整備を進め、効果的な情報の共有を図る</b>	<b>保護者、地域、関係機関と連絡を密にし、情報を校内に発信し活用する</b>
	たとえば・・・ <input type="checkbox"/> 校内の共有フォルダ構成を整理する <input type="checkbox"/> 他職と連携し、情報管理に必要な条件整備を行う	たとえば・・・ <input type="checkbox"/> 要望等について、「対応ナビゲーション」を活用し、教職員で共通理解を図る <input type="checkbox"/> 地域・関係機関の連絡先等を一覧にし、いつでも活用できるようにする
Step3 (進める)	<b>情報管理体制の適正化を提案し、教職員に周知する</b>	<b>学校運営や教育活動での情報活用のため、関係諸機関や教職員、地域との調整を行う</b>
	たとえば・・・ <input type="checkbox"/> 教職員及び児童・生徒に関する個人情報の管理について周知徹底する <input type="checkbox"/> 学校間で校内の共有フォルダ構成を統一する	たとえば・・・ <input type="checkbox"/> 校外学習などの情報提供、調整等に関わる <input type="checkbox"/> 校内情報管理諸規程について見直し、職員会議で提案する
Step4 (広げる)	<b>校内LAN、イントラネットを効果的に活用した事務処理システムを構築し、業務の効率化を進める</b>	<b>教育活動についての効果的発信や、学校運営における情報の活用について提案する</b>
	たとえば・・・ <input type="checkbox"/> 情報管理委員会を立ち上げ、校内システム構築について検討する <input type="checkbox"/> 学校間に係る支援システムを開発する	たとえば・・・ <input type="checkbox"/> 学校だより・HPでの学校の情報発信について企画・提案する <input type="checkbox"/> 情報管理やセキュリティについての現職教育を行う
Step5 (創造する)	<b>市町の学校の情報管理体制を見直し、規程整備等を提案する</b>	<b>市町の学校の情報を活用し、発信する体制づくりを企画運営する</b>
	たとえば・・・ <input type="checkbox"/> 市町教委と協働して規程を整備する <input type="checkbox"/> 市町教委、関係機関と連携し、市町全体のネットワークやシステムを改善する	たとえば・・・ <input type="checkbox"/> 家庭・地域・学校協議会へ出席する <input type="checkbox"/> 市町全体の教育関係機関において、情報を共有できる体制をつくる
わたしの取組		
よかったこと 成果 来年度がんばろうと思うこと		

研修

- ◆人材育成・資質能力開発等のキャリア形成を図り、事務職員の質を向上させ、意識改革を図る
- ◆学校内外の連携・調整や渉外調整機能の役割を担う、組織マネジメントの資質能力をもつ事務職員をめざす
- ◆学校教育に貢献していくための、質の高い安定した学校事務の供給につなげる研修を推進する

取組	【input自他の育成】 職務遂行および教育支援において、必要な能力を身に付ける	【output学びの活用】 研修の成果を業務に生かし、自校や地域の学校の課題解決につなげる
Step1 (わかる)	学校事務職員として必須の知識を習得し、正確で迅速な事務処理を行うことをめざす	学校内外の組織や特色を理解し、強みや弱みを把握する
	たとえば・・・ <input type="checkbox"/> 実務研修やパワーアップ研修に積極的に参加する <input type="checkbox"/> 学校経営について理解を深める	たとえば・・・ <input type="checkbox"/> 校区地域の特色や伝統行事について管理職や地域の人から学ぶ <input type="checkbox"/> 自校の経営資源(ひと・もの・かね・情報)を把握する
Step2 (できる)	学校の内外の連携を円滑に進める役割としての能力を身に付ける	学校事務に関しての情報提供や助言を教職員に的確に伝える
	たとえば・・・ <input type="checkbox"/> PTAや地域の行事に積極的に参加し、コミュニケーションを取る <input type="checkbox"/> 教職員と積極的にコミュニケーションを取り、校内の課題を把握する	たとえば・・・ <input type="checkbox"/> 分かりやすい事務だより、職員会議資料の作成に努める <input type="checkbox"/> 教職員研修や地域情報の発信を(年3回)行う
Step3 (進める)	授業づくりや教育活動の充実に学校事務の面から参画・支援できる力を身に付ける	研修で得た内容を実践し、業務の効率化や事務改善に生かす
	たとえば・・・ <input type="checkbox"/> 授業の様子を積極的に(月1回以上)参観する <input type="checkbox"/> 教材備品選定に向けて有効な情報を収集する	たとえば・・・ <input type="checkbox"/> 研修や他校の実践をもとに、従来の事務処理の見直しを行う <input type="checkbox"/> 学校間や地域・家庭との連絡調整を行う
Step4 (広げる)	人材育成の視点を持ち、リーダーとして地域の事務職員をまとめる力を身に付ける	専門的知識を生かし、自校や地域の学校事務に必要な研修を企画、運営する
	たとえば・・・ <input type="checkbox"/> 若手事務職員の研修計画を立案する <input type="checkbox"/> 市町事務職員のニーズを把握し研修体系を見直す	たとえば・・・ <input type="checkbox"/> 「対応ナビゲーション」をもとに研修を企画、実施する <input type="checkbox"/> 地域で開くイベントにおいて、学校への理解促進を図る
Step5 (創造する)	学校経営や地域の学校事務の中核的役割を担う力を身に付ける	今後の教育情勢を視野に入れ、中長期的なキャリア形成ができる体制をつくる
	たとえば・・・ <input type="checkbox"/> 市町教委と情報を共有できるシステムをつくる <input type="checkbox"/> 学校評価の結果を生かし、管理職等と協働して改善のための研修計画を立てる	たとえば・・・ <input type="checkbox"/> 市町教委と連携した教職員向けの研修会を計画的に企画、運営する <input type="checkbox"/> 家庭・地域の教育力向上のためのネットワークづくりを企画、運営する
わたしの取組		
よかったこと 成果 来年度がんばろうと思うこと		

## 教育関係用語解説集

教育関係の用語や  
教育施策について  
理解しよう！



	<b>グランドデザイン</b>	<p>壮大な図案・設計・着想。長期にわたって遂行される大規模な計画  <b>学校事務のグランドデザインは、新しい時代の中・長期的な学校事務の全体構想を描くものであり、義務教育における学校事務・事務職員の将来構想、長期的な全体計画である。【全事研】</b></p>
あ 行	<b>ICT教育</b> (Information and Communication Technology for Education)	<p><b>情報コミュニケーション技術教育</b>                  学校教育の場に情報通信技術（ICT）を活用すること。具体的には、電子黒板やノートパソコン、タブレット型端末などを用いた教育を指すことが多い。広義のICT教育には、デジタルカメラやプロジェクターなどを用いた教育を含めることもある。</p>
	<b>アクティブ・ラーニング</b> (AL)	<p>教員による一方向的な講義形式の教育とは異なり、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法の総称。学修者が能動的に学修することによって、認知的、倫理的、社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成を図る。発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習等が含まれるが、教室内でのグループ・ディスカッション、ディベート等も有効なアクティブ・ラーニングの方法である。</p>
	<b>アドミニストレーション</b> (アドミニストレーター)	<p>マネジメントの指揮命令に合わせて、各部門の現場活動を効率的に行うための諸活動を指し、確立した組織機構の中で機能別に現場の業務を管理すること。学校内での行財政面での管理者。</p>
	<b>ESD</b> (Education for Sustainable Development)	<p><b>持続可能な開発のための教育</b>                  世界には環境、貧困、人権、平和、開発といった様々な問題がある。ESDとは、これらの現代社会の課題を自らの問題として捉え、身近なところから取り組むことにより、それらの課題の解決につながる新たな価値観や行動を生み出すこと、そしてそれによって持続可能な社会を創造していくことをめざす学習や活動。</p>
	<b>イノベーション</b>	<p><b>革新(或いは技術革新)</b>                  組織の活動において、従来とまったく異なる非連続的な発想や技術の導入によって、それまでになかった問題解決の手法を生み出すことを指す。</p>
	<b>インクルーシブ教育</b>	<p>障害の有無によらず、誰もが地域の学校で学べる教育。国連の障害者権利条約の批准に向けて国内の法整備が進む中、平成24年7月に成立した改正障害者基本法でインクルーシブ教育の理念が盛り込まれた。</p>
	<b>AI</b> (Artificial intelligence)	<p><b>人工知能</b>                  人工的にコンピュータ上などで人間と同様の知能を実現させようという試み、或いはそのための一連の基礎技術を指す。</p>
	<b>エビデンス</b>	<p>証拠・根拠、証言、形跡などを意味する英単語“evidence”に由来する、外来の日本語。                  一般用語として使われることは少なく、学術用語や業界用語としてそれぞれに異なる意味合いで使われている。</p>
	<b>OJT</b> (On-the-job training)	<p>職場での具体的な業務を通じて、仕事に必要な知識・技術・技能・態度などを研修することによって、全体的な業務処理能力や力量を育成する活動。</p>
か 行	<b>学力向上アクションプラン</b>	<p>「確かな学力」向上のために文部科学省が平成15年度から実施しているプラン。                  その内容は、個に応じた指導の充実、個性・能力の伸長、学力の質の向上、英語力・国語力の増進の4つからなり、それぞれに具体的な活動が展開されている。</p>
	<b>学校支援地域本部事業</b>	<p>社会が複雑多様化し、子どもを取り巻く環境も大きく変化する中で、学校だけが役割と責任を負うのではなく、学校・家庭・地域が一体となって地域ぐるみで子どもを育てる体制を整えることを目的とし、学校教育の充実、生涯学習社会の実現、地域の教育力の向上をそのねらいとした事業。</p>

学校事務の統括	個々の学校事務の業務を、学校経営目標達成に向けて有機的に機能するように全体として一つにとりまとめて管理していくこと。
学校事務の見える化	学校事務についての情報を教職員、保護者、地域など学校に関わる人々の中で共有すること。それにより、学校事務の課題解決や改善に役立て、地域に開かれた学校づくりを実現する。
学校組織マネジメント	学校内外の能力や資源を開発・活用し、学校に関わる人たちのニーズと適応させながら、学校の教育目標を達成していく活動（過程）。
家庭・地域・学校協議会	保護者・地域住民・学校の代表が子どもたちの成長や教育に関わる課題について一元的に協議し、それぞれが責任を持って取り組むことにより、地域全体の教育力向上に資することを目的とした協議会。
ガバナンス	組織や社会に関与するメンバーが主体的に関与を行なう、意思決定、合意形成のシステム 学校においては、教職員だけでなく生徒や保護者・地域が参加して、学校をより良いものにしていくということ。
カリキュラム(教育課程)	学校教育目標を達成するために行う教育活動計画全般のこと。狭義では教育課程ともいう。 また、教育課程を創り出していく会議をカリキュラム編成会議という。
キャリア	職業・技能上の経験、経歴。
キャリア開発	個人が歩むキャリアについて、どのような能力を開発し、どのような仕事に、どのようなタイミングで配置転換させていくのかなど、組織が長期的・体系的な計画をつくり、個人のキャリア形成を支援していくための環境を整備する考え方。
キャリアステージ	様々な就業場面。キャリアステージは個人の成長に合わせてレベルがあがっていくと考えられる。
キャリアデザイン	自らのキャリアを自らの手で主体的に描く（デザインする）こと。役職に関わらず、組織で働く者すべてにキャリアの発想が重要との観点から、対象となる個人の範囲が広いとされる。
教育特区	構造改革特区(特区)のうち、文部科学省関連のものであり、教育特区としては、学習指導要領によらない多様なカリキュラム編成、株式会社による学校設置の容認、地方公共団体と民間との連携・協力による公私協力学校の設置など23項目の特例措置がある。
経営資源	学校経営を行う上で、必要不可欠なもの。ひと（人材・人脈）・もの（施設設備・物品・技術力）・かね（資金・信用力）・情報（知的財産）のこと。 さらに、校内の各組織、担当間および学校内外にある組織や経営資源を結びつける機能としてネットワークや、時間（タイムマネジメント）も重要な経営資源といわれている。
経営戦略	組織が経営を行うにあたって、最上位の概念となるのが経営理念・経営ビジョンである。これら基本的な価値観を具現化するためのより具体的な方法論を経営戦略という。
経営理念	組織の存在意義や使命を、普遍的な形で表した基本的価値観の表明。 例えば、【県事研は何のために存在し、県事研組織の運営をどのような形で行うことができるのか】ということを明文化したもの。
コーディネーション (コーディネーター)	組織がその目標を達成するため、行動の統一をはかり、分散された管理機能を調和・整備すること。学校における行政等との調整者。
コミュニティ・スクール	学校運営協議会制度であり、学校と保護者や地域がともに知恵を出し合い、学校運営に意見を反映させることで、一緒に協働しながら子どもたちの豊かな成長を支え「地域とともにある学校づくり」を進める仕組み。

か  
行

さ 行	事務機能	事務職員および学校の組織が、本来備えている役割や働きをより強くし、効果的に働かせること。 学校事務の役割を明確にし、より高いものにし、学校組織の中で、うまく作用させていくことによって、子どもたちの育成により効果的な働きをすること。
	情報セキュリティ	情報の機密性、完全性、可用性を確保すること。 機密性とは、ある情報へのアクセスを認められた人だけが、その情報にアクセスできる状態を確保すること。完全性とは、情報が破壊、改ざん又は消去されていない状態を確保すること。可用性とは、情報へのアクセスを認められた人が、必要時に中断することなく、情報にアクセスできる状態を確保することをいう。
	熟議	十分に論議を尽くすこと。 政策の形成や教育現場の課題解決のツールとして用いられることが多い。
	ジョブ・ローテーション	メンバーの将来を見通した育成計画を立案し、それに基づいて必要な時期に必要な職務を、計画的に体験させる人事管理上のしくみのこと。 仕事の中身を変えるというより、職群の異なったところへのローテーション、同種の職群の中で異なった職務へのローテーション、あるいは同じ職群でも場所的に異なったところへのローテーションのことをいう。
	シラバス	日本では講義・授業の大まかな学習計画のこと。 米国では、各回講義内容から教員連絡方法まで、個別講義の受講に関して必要な情報をすべて盛り込んだメモのこと。
	SC (スクールカウンセラー)	教育機関において心理相談業務に従事する心理職専門家の職業名、および当該の任に就く者のことであり、学校カウンセラーと呼ばれることもある。
	SSW (スクールソーシャルワーカー)	子どもの家庭環境による問題に対処するため、児童相談所と連携したり、教員を支援したりする福祉の専門家。
	全国学力・学習状況調査	義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るために、小学校第6学年、中学校第3学年を対象に実施する調査。
	戦略	特定の目的や方針を実現するため、長期的・全体的展望に立った準備・計画。特に、俯瞰的にものごとを捉え、大きな経営判断を指すもので、部分にとらわれず全体像を把握することが重要である。
	戦術	戦略の実現手段。全体像の中で、部分的な実現の手法。戦略に比べるとより具体的な行動を指す。
組織開発	組織の有効性（目的達成度）と健全性（人間の満足度）を高め、また組織が環境変化にタイミングよく適応していくために、組織を動かしている人の価値観や態度、風土、人と人との関係などをより良い方向に変革を図っていくこと。	
た 行	TALIS (Teaching and Learning International Survey)	OECD国際教員指導環境調査 学校の学習環境と教員の勤務環境に焦点を当てた国際調査であり、平成20年に第1回調査が実施され（参加24か国・地域、日本は不参加）、平成23年に実施された第2回調査には日本を含む34か国・地域が参加しており、文部科学省との連携のもとに、国立教育政策研究所が国内における調査の実施を担当している。
	地域子ども教室推進事業	平成16年度から文部科学省が推進している、地域住民が主体となった子どもの居場所づくりに関する取組。
	知識基盤社会	新しい知識・情報・技術が政治・経済・文化をはじめ社会のあらゆる領域での活動の基盤として飛躍的に重要性を増す社会。
	地方創生	第2次安倍政権で掲げられた、東京一極集中を是正し、地方の人口減少に歯止めをかけ、日本全体の活力を上げることを目的とした一連の政策であり、ローカル・アベノミクスともいう。

た 行	チーム学校	校長のリーダーシップの下、カリキュラム、日々の教育活動、学校の資源が一体的にマネジメントされ、教職員や学校内の多様な人材が、それぞれの専門性を生かして能力を発揮し、子どもたちに必要な資質・能力を確実に身に付けさせることができる学校。
	TIMSS (Trends in International Mathematics and Science Study)	初等中等教育段階における児童・生徒の算数・数学及び理科の教育到達度を国際的な尺度によって測定し、児童・生徒の学習環境条件等の諸要因との関係を分析するための国際数学・理科教育動向調査であり、国際教育到達度評価学会（IEA）が行う小・中学生を対象とした国際比較教育調査。
は 行	パブリシティ	政府や団体・企業などが、その事業や製品に関する情報を報道機関に提供し、マスメディアなどで報道されるように働きかける広報活動。
	PISA	経済協力開発機構（OECD）による国際的な生徒の学習到達度調査。
	ビジョン	将来の見通し、構想。未来像。経営理念で規定された経営姿勢や存在意義に基づき、ある時点までに【こうなっていたい】と考える到達点。 その組織がめざす中期的なイメージを組織の構成者（各校事務職員）や関係者（管理職をはじめとする教員や教育委員会）、また社会全体に示したものである。
	標準化	相互運用のための広く合意されたガイドラインという意味が含まれ、「標準化」はそのような標準を確立する過程を指すのが一般的である。
	ファシリテーション (ファシリテーター)	メンバーに主体的な参加意識を醸成し、チームの合意形成や相互理解を促進するために効果的なスキルであり、会議等を活性化させ、参加者の協働を促進させる手法・技術・行為の総称。学校における住民参加の協働促進者。
	平準化	物事の不均衡や格差をなくし、公平な状態にすること。
	補完性の原理	個人が主体的に行えることは個人が行い、個人では不可能なことを、組織や地域社会といった小さな単位が補完し、さらに、市町村、県、国といった大きな単位が順に補完していくという考え方。
ま 行	ポートフォリオ	自分の能力を周囲に伝えるための自己作品集のこと。教育分野における個人評価ツールであり、その他、文脈によって、特定の資料や情報を指すために使用される。
	マスタープラン	基本計画・基本設計
	マネジメントサイクル	組織が目的を達成するために、多面的な計画を策定し、計画通りに実行できたかを評価し、次期への行動計画へと結びつける一連の管理システム。Plan（計画）・Do（実行）・Check（点検・評価）・Action（改善策実施）の頭文字をとって、PDCAサイクルと呼ばれているが、これに、Research（実態調査・診断）を加えた、R-PDCAが基本サイクルとされる。
	ミッション	任務や使命のこと。これらには、次の3要素【目標】【行動】【義務】が含まれる。 まず第一に「到達すべき目標がある」こと。第二に「目標に進んでいく行動がある」こと。そして、第三に「それらが何かに求められている」こと。
ら 行	メディアリテラシー	世の中にある数え切れないほどのたくさんの情報メディアを主体的に読み解いて必要な情報を引き出し、その真偽を見抜き、活用する能力のこと。
	リテラシー	活用能力 「情報リテラシー」は「情報活用能力」と訳される。

参考文献 文部科学省 学校組織マネジメント研修モデル・カリキュラム・テキスト  
平成28年度「福井型コミュニティ・スクール推進事業」実施要項

参考URL <http://www.sanno.ac.jp/term/index.html>  
<http://www.weblio.jp/>  
総務省HP、文部科学省HP、国立教育政策研究所HP、光文書院 教育用語集

「 学校事務グランドデザイン つぐみ 」 策定メンバー

平成28年度 常任理事会・事務局

会長	櫛山 繁子	坂井市立長畝小学校	情報部長	谷口 健	越前市北日野小学校
副会長	濱野紀美代	越前町立織田中学校	研修部長	大林三千代	勝山市立平泉寺小学校
副会長	吉田 清子	福井市至民中学校	会計	北風 智美	あわら市芦原中学校
事務局長 (総務部長)	前田 礼子	坂井市立高椋小学校	書記	廣野るみ子	坂井市立春江中学校
研究部長	小林 初美	福井市下宇坂小学校	事務局員	林 純子	坂井市立東十郷小学校

平成28年度 研究部員

研究部員	石黒 真弓	福井市西藤島小学校	研究部員	大野由美子	坂井市立春江東小学校
〃	齊藤 恵子	福井市国見小学校	〃	佐々木志穂	鯖江市鯖江東小学校
〃	島寄 由衣	福井市清水西小学校	〃	古川 和美	越前市武生東小学校
〃	川上 雅哉	永平寺町志比南小学校	〃	松井 香里	敦賀市立気比中学校
〃	山腰 大志	勝山市立勝山北部中学校	〃	藤本 裕恵	小浜市立加斗小学校
〃	林 佳代子	大野市有終南小学校	〃 (27年度)	齋藤 絵里	永平寺町志比北小学校
〃	齊藤 紀子	あわら市金津小学校	〃 (27年度)	水上好史江	坂井市立大石小学校
〃	堀 真嘉	坂井市立鳴鹿小学校			

元気な子供の笑顔のための  
学校事務グランドデザイン「つぐみ」

平成29年2月発行  
福井県公立小中学校事務職員研究会